

北海道研会報

北海道道德教育研究会

第 152 号

発行所：北海道道德教育研究会

事務局：〒062-0041

札幌市豊平区福住 1 条 3 丁目 16-1

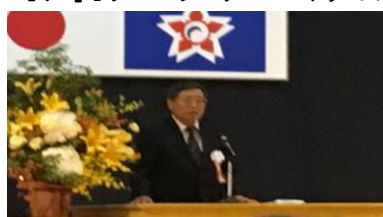
札幌市立羊丘中学校

TEL 011-851-9352 FAX 011-851-0924

発行人：松 井 毅

編集人：鹿野内 憲 一

「道徳科」元年に向けて 函館大会の成果を上川・旭川大会につなげる



第 52 回北海道道德教育研究大会函館大会

大会長 松 井 毅

(札幌市立新光小学校長)

ひとが輝き、まちが輝く交流都市函館市において、第52回北海道道德教育研究大会を400名を超える参加者を得て、盛大に開催できましたことをたいへんうれしく思います。御参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

また、今研究大会開催に当たり、御支援・御協力いただきました各教育関係機関及び会場校の函館市立駒場小学校宇佐美校長先生、函館市立深堀中学校蓮本校長先生をはじめ教職員、関係者の皆様、準備・運営に御尽力いただきました函館市小学校道德教育研究会・函館市中学校道德教育研究会の会員の皆様には、改めて心より御礼申し上げます。

本年度の函館大会は、5年ぶりの全道大会でした。函館市小学校道德教育研究会・函館市中学校道德教育研究会の皆様は、全道大会開催に向けて、授業研や研修等精力的に取り組まれました。また、函館市全体で強いお力添えをいただいたことに、オール函館として道德教育の充実に取り組む熱意を感じました。

函館大会では、大会主題『しなやかな心をもつ児童・生徒の育成』のもと、「つながりの中から、よりよい生き方について考えを深め、主体的に（小学校）適切に（中学校）行動できる子どもの育成」を副主題に、「特別の教科 道徳」の実施に向けて、研究と研修の視点を通しての取組が発表されました。

午前中、小学校で6つ中学校で6つの授業が公開されました。教師の明確な指導観のもと、全教育活動との「つながり」を大切にし、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行動に関する体験的な学習」等、多様な指導方法を取り入れた実践が行われました。

これらの学習展開は、函館市小学校道德教育研究会・函館市中学校道德教育研究会が積み上げてきた実践をもとにしたものであり、函館の大きな財産であると思います。

私たちが今まで行ってきた道徳の授業を見直し、「考え・議論する道徳」の授業の在り方について研究・研修を更に深めていきたいものです。

午後に行われた課題別分科会では、全道各地の様々な実践が交流され、道德教育の今日的な課題をテーマに活発な話し合いが行われました。特に、第2分科会「道徳科の指導と評価」の参加者は120名を超え、関心の高さを感じました。

この成果が今後各地に広められ、全ての学校で実を結ぶものと確信しております。

また、講演をしていただきました上越教育大学副学長の林泰成先生のお話は、これからの道德教育の在り方について、わたしたちの進むべき方向を示していただきました。

このように、函館大会は、多くの成果をあげ、実り多い大会であったと思います。いよいよ来年度、小学校で道徳科がスタートします。この成果を来年度の上川・旭川大会へとつなげ、教科化に向け、オール北海道でがんばっていきましょう。

教科化元年を前に



第 52 回北海道道德教育研究大会函館大会

大会運営委員長 吉田 敬三

(函館市立鱒川小中学校長)

毎年の地域ブランド調査魅力度ナンバー1で、京都市としのぎを削りあう函館市において、第52回北海道道德教育研究大会が開催され、無事終了いたしました。昨年の日高大会の成果を受け、400名を超える皆様に参加いただきましたことに心より感謝申し上げますとともに、全小道、全中道をはじめ北海道研や各支部、関係機関の皆様のご協力に対し改めて御礼申し上げます。

来年度からの小学校、そして再来年度からの中学校での教科化を前に、教育の動向では旬な時期とも重なるだけに、本大会に寄せられる期待の重さを肌で感じながらの運営準備でした。開催地のメインとなる授業づくりにおいては、指導観を重視しつつ、函館市の道德教育が積み重ねてきた「不易」である、読み物教材を使った授業展開を見つめなおし、自我関与につなげる教材分析・深める発問による授業展開など、改めて多様な視点から確認することができました。授業別分科会でのくじ引きによるグループ編成と討議、林泰成氏によるモラルスキルトレーニングで道德性を行動にまで高める授業づくりの提案等、函館なりに工夫、努力してご用意した提案が、しっかりと皆様に届くことで、道内各地での教育実践において、何らかのヒントになってくれれば……と願います。

結びになりますが、本研究大会に「つながり」をお持ちいただいたすべての皆様に対し、衷心より御礼申し上げ、大会終了のご挨拶といたします。来年、旭川での再会を楽しみにしております。

第52回函館大会～授業者から

小学校3年授業者 阿保裕也

(北海道教育大学附属函館小学校)

私は今回授業者をさせていただいたことで、今後道德の授業を考えていくための多くの財産を得ました。それは、「明確な指導観」をもつこと、「子ども主体の学習展開や発問」を効果的に位置付けることです。授業を構想する際には、内容項目の構造と子どもの実態を関連付けて、ねらいを明確にしました。さらに子どもたちにはどの教材が合っていて、教材をどう授業の中で活用するのか吟味していきました。

これらのことをしっかりとおさえて授業を構想することが、子ども主体の授業づくりにつながるということが一層明確になりました。

多くの先生方からのご助言、ご指導、本当にありがとうございました。



第52回函館大会～授業者から



小学校5年授業者 三浦 明子

(函館市立南本通小学校)

道德を通して、狭い価値観の子どもたちが、今までとは少し違う物の見方をするようになっていたり、授業で考えたことを日常生活でも振り返る様子が見られるようになっていたり、道德の必要性和子どもの成長を感じています。本時では、前時に「思いやり」について考えていた子どもたちの認識が予想していたより深まっていたためか、発問で示した選択肢の一方に考えが偏ってしまいました。そのため、教師の問い返して揺さぶり、自分の考えに理由付けさせることで考えを深めていきました。子どもたち同士が意見をぶつけ合うことだけが考えを深めるのではなく、自分の考えにしっかりと向き合うこと事態が考えを深める大事なことなのだと学ぶことができました。今回は、たくさんのご意見をいただき大変勉強になりました。今後も、より深く考えることのできる道德を目指して努力していきたいです。

中学校2年授業者 菊地 友佳子

(函館市立本通中学校)

大きな公開授業の経験もない私が授業者で良いのかとても不安でしたが、函館市道德研の先輩方に支えてもらい最後までやりきることができました。

指導案をつくる上で、私自身の勤労観をなかなかもつことができず、生徒が深く考えることができる発問づくりにとっても苦勞しました。当日の授業では、お互いに緊張して思うように話し合いが進まなかった部分もありました。しかし、必死に考え、今までの自分を振り返り、これからの自分はどのようにしていきたいかを導き出す姿を見ることができました。

道德研を通して、普段の生活から考えたり、話し合ったりする場面を取り入れていかなければならないと感じました。これで終わりにせず、今後の道德も様々な活動と関連させながら行っていきたいです。



第52回函館大会～課題別分科会提言者から



第2分科会提言者 木村 勇太 (新ひだか町立静内第三中学校)

今回の提言では、本校の道德の評価の実際と、評価の開始に向けて行った取り組みを発表させていただきました。本校の教職員集団だけでなく、日高管内道德教育研究会の力強いバックアップもあったおかげで、なんとか発表までたどり着くことができました。

今年度から先行実施することになった道德の評価。まだまだ工夫・改善が必要なところがあります。分科会でいただいたご意見やご感想、ご助言をもち帰り、生徒が意欲や希望をもち、前向きになれる評価をつくり出していきたいと考えています。

このような貴重な機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。



第1分科会提言者 河毛 留美 (苫小牧市立明德小学校)

今回の提言では、道德教育推進教師を中心とした校内の取組、家庭や地域社会との連携を図った道德教育の実践について発表させていただきました。

この発表を通して、教員や保護者、児童の願いを反映した道德教育の大切さを再確認しました。今後も、全教員で思いを共有し、一体感をもって道德教育を推進していくことの必要性を強く感じました。

分科会では、温かいご意見やご感想、貴重なご助言をいただき、多くのことを学ぶことができました。このような機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。

第4分科会提言者 荒川 慶悟 (釧路市立阿寒湖中学校)

本校で実践している、道德の時間における読み物資料の開発を提言させていただきました。自分たちで読み物資料を開発していくということが、当初はこれだけ苦勞するものだとは考えていませんでした。しかし、読み物資料を作成していく中で、私自身が地域のことをより深く学び、考えることができました。当日の発表では様々な先生方に感想やご意見をいただき、より良いものを作成していくことができると考えます。今後は年間指導計画に盛り込むなど、継続的に作成した資料を活用していきたいと考えます。このような貴重な機会をいただいたことを心より感謝申し上げます。

函館大会講演



講師:上越教育大学副学長 林 泰成 氏

演題:考え、議論する「特別の教科 道徳」の授業づくり

上越教育大学副学長・林泰成氏により、「考え、議論する『特別の教科 道徳』の授業づくり」と題して講演が行われました。

講演では、来年度からの道徳科の実施について、いじめの未然防止などに結び付けることを考えると、「葛藤資料」の使用が増加する傾向になるとのお話がありました。その上で、子ども同士が知識を活用しながら議論したり、コミュニケーション能力を向上させたりする授業の必要性を強調されました。また、質の高い指導方法の実施に関しては「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を重要なポイントとして挙げ、板書の仕方や指導方法についてのご助言をいただきました。次年度の教科化に向けて、とても実りある講演となりました。



大会スタッフ



第 52 回 北海道道德教育研究大会 函館大会
 ＊期日：平成29年10月20（金）
 ＊会場：函館市立深堀中学校
 （中学校授業、授業別・課題別分科会、講演会）
 函館市立駒場小学校
 （小学校授業、授業別分科会）